

| | | | | | | |
|-------------|---|--|---------|-----|--|-----------------|
| 法人 (事業所) 理念 | | ・誰もがひとりの人として尊重される権利を有していることを意識し、その力を最大限に発揮して生きることを支援する。 ・人として尊厳を尊重し、その人らしく暮らすということを模索し、丁寧な支援を継続する。 | | | | |
| 支援方針 | | NPO法人ADDSが開発した保護者参加型の個別療育「ベあすく」という療育支援をご提供。 ①ABA (応用行動分析学) に基づいた支援 理論体系に基づき、お子様一人ひとりの課題をスモールステップで設定し、成功体験を積み重ねながら発達を促しています。支援サポートツール「AI-PAC」療育情報共有アプリケーションを用いながら、お子さんの特性に合わせてプログラムを立てて実践しています。 ②発達支援の伴走 支援者 (セラピスト) と保護者様がチームとなり、オーダーメイドのプログラムに基づき、療育を展開しています。また、ご家庭でも出来る具体的な療育の支援方法をお伝えし、実践に関するアドバイスも行なっています。 | | | | |
| 営業時間 | | 8時 | 30分 | 19時 | 00分 | 送迎実施の有無 あり (なし) |
| 支援内容 | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 手先操作：手先を使った道具の操作に取り組み、生活に必要な動作の獲得に繋がります。【例：ペグ刺し・ひも通し・洗濯バサミの操作・運筆系】 生活スキル：スプーンやお箸の操作・衣服の着脱・排泄等の生活に必要な基本的技能の獲得を目指します。【例：衣服着脱・ボタン留め掛け・お箸操作・トイレトレーニング】 | | | | |
| | 運動・感覚 | 様々な運動：様々な動作を経験し、動作の幅を広げることで運動機会を増やし、姿勢と運動・動作の向上に繋がって行くことを目指します。【例：ボール・縄跳び・ケンケン】 模倣動作：姿勢の保持、多様な動作の習得に加え、他者の動きを観察し自身に置き換えて真似をする社会的スキルの獲得に繋がります。【例：粗大動作・動作保持・左右非対称の動き】 ➡模倣動作は、他者の動きを見て行動を取る観点から「人間関係・社会性」にも掛かる。 | | | | |
| | 認知・行動 | 視覚情報：認知発達に関連する、目から入る情報の処理スキルの獲得に繋がります。【例：ジグソーパズル・積み木操作】 注意流暢性：連続した指示や多様な指示に応じることで、注意の維持・気持ちと行動の切り替えが出来る力を促します。【例：追視・フラッシュ】 数：数字・数量の理解など、数概念の獲得を目指します。【例：数字のマッチング・数唱・数え上げ・〇個渡す】 スクールスキル：主に就学後に必要となるスキルの獲得を促すことで、集団に参加するための手順やルールを理解し、安心して学校生活を過ごせることを目指します。 【例：国語・算数のプリント・集団に必要なスキル (プリントを後ろの人に回す・拳押し発信する) ・道具スキル (鉛筆削りの使い方・ランドセルの扱い方)】 ➡スクールスキルは、集団での行動・他児や先生とのやり取りが求められる観点から「人間関係・社会性」「言語・コミュニケーション」にも掛かる。 | | | | |
| | 言語コミュニケーション | 音声模倣：様々な音の発声を促すことで、言語の形成に繋がります。【例：口辺模倣・単音模倣・笛や風車を吹く】 要求：欲しいものやこと、拒否の要求をサイン・カード・音声などお子さんに合った方法で周囲に伝えられるようになることを目指します。【例：サインで要求・2語文要求・拒否・PECS】 受容語彙・概念：言葉での働き掛けを理解し、対応した動作をしたり、物を選択する行動が安定して出来る状態を目指します。【例：動作指示の理解・名詞や動詞の理解】 叙述語彙・概念：言葉で自分が見たもの、経験したことなどの情報を他者に伝える力を育てます。【例：名詞や動詞の表出・2語文での表出・経験の報告】 会話：他者の言葉に対して、対応する言葉で反応する力を育てます。言葉でのやりとりのレパートリーを増やし、相互的なコミュニケーションを図ることに繋がります。【例：掛け声の続きを言う・自己情報を答える・相槌を打つ・交互に話す・テーマに沿って話すなどの会話ルール】 文字：特性に合わせてひらがなの読み書き、単語や文章の意味理解などを進めることで、読み書き能力の向上を目指します。【例：ひらがなの読み・アナグラム (単語作り) ・文字で書かれた指示の理解】 | | | | |
| | 人間関係社会性 | 自己統制：気持ちや行動をコントロールし、ルールを守ったり見通しを持って活動する力を育てます。【例：タイマーやスケジュール理解・自分の感情・困りごとの理解】 遊び：感覚を楽しむ遊びから象徴遊びまで、様々な遊びを楽しむ力を育てます。【例：身体遊び・玩具操作・おままごと・鬼ごっこ】 | | | | |
| 家族支援 | ①保護者参加型のプログラム「ベあすく」の提供 (ペアレントトレーニング) 「ベあすく」は、お子さんへの個別支援とご家族の学びのプログラムを同時に進めます。保護者向けe-learning教材の提供・ご家族に合わせたホームワークのご提案とレクチャーを丁寧に進め、ご家族は日々の生活の中で療育に取り組めるようサポートします。 ②発達支援に関する情報提供 近隣の市よりいただく発達支援に関するセミナー・イベントなどの情報は随時保護者へお知らせ・事業所内掲示板で告知をし、発達障害についての理解や学びが深まるよう発信します。 ③相談支援の実施 毎回の利用において、お子さんの最近の様子 (ご自宅・園・学校などの) や困り事などを丁寧に伺い、解決へ向けた相談援助の機会を設けています。 | | 移行支援 | | ①保育園・幼稚園・小学校との情報共有 お子さんの療育場面での様子や特別な配慮が必要な点について、保育園や幼稚園・小学校と情報を共有します。また、必要に応じてミーティングの機会も設け、お子さんの実情に寄り添った支援を進め、様々な場で一貫したサポートが受けられるよう努めています。 ②相談支援事業所への情報共有 地域の相談支援事業所と連携し、お子さんとご家族が継続してサポートが受けられるよう情報を共有しています。 | |
| 地域支援・地域連携 | ・保育園・幼稚園・小学校へ訪問させていただき、お子さんの様子から適切なアプローチの方法などを提供・共有しています。 ・お子さんの日々の様子や状態から、必要に応じて医療 (心療内科・歯科など) と連携を取り、暮らしやすい日常のサポートをしています。 | | 職員の質の向上 | | ①初級ABAセラピスト養成研修 療育に携わる全支援員 (セラピスト) が、ABA (応用行動分析学) に基づく支援の基本スキルを学ぶ研修を受講しています。 (NPO法人ADDSが定めるもの) ②法人内部でのスーパーバイズ 日々の支援を通して、職員の実践力・分析力が高まるようアドバイザーが定期的に現場に入り、具体的なアドバイスや効果的な支援方法を提供しています。 ③法人内部研修 自身で発達障害や関連疾患などテーマを決め、それに沿って1年間自己学習が出来る機会を設けています。また、学習の成果として法人内での発表会も実施しています。 ④ADDSによるスーパーバイズ 月に1回、専門機関によるスーパーバイズを実施し、療育の質の向上に努めています。 ⑤作業療法士とのコンサルテーション 月に1回、作業療法士とのコンサルテーションを実施。お子さんの運動機能面に関してアドバイスをいただき、療育での実践を進めています。 | |
| 主な行事等 | ・地域交流イベントへの参加 成人事業の保護者の会・法人が企画するイベント。社会参加を通じて地域住民の方々との繋がり、スポーツイベントや音楽イベント・ミニゲームなど多岐の催し物の経験が出来るよう発信しています。 | | | | | |